

野上農林水産大臣現地調査概要

(1月23日：新潟県南魚沼市 育苗ハウス)



【被災状況】

- 12月15日から雪は毎日約1mずつ3日続き、総動員の除雪、融雪施設も追いつかず、22棟中19棟(地域としては50棟以上)が被災。
- 初雪だったので、ビニルに付着した埃の上に雪が積もって団子状となり、パイプ径31mmの耐雪ハウスだったが、真ん中から潰れた。



【主なご意見】

- 地域の3分の1(約600ha)の育苗ハウスの被災で、雪消えを待てない。融雪剤を撒いて除雪し、早く撤去して春作業に間に合わせたい。
- 育苗は全てを間に合わせられず、他管内のJAや育苗を手掛ける農業者に協力をお願いする必要。
- ハウスを守るため、あえて隣のパイプを切断しハウスを倒したり、ビニルを破いて雪の中に入れてたりせざるを得なかった。

野上農林水産大臣現地調査概要

(1月23日：新潟県上越市 育苗ハウス)



【被災状況】

- 短期間で積雪約2mとなり、道路除雪も進まずなかなか現場にたどり着けない状況だった。
- 水を流す消雪パイプは備えており、トラクターに取り付ける除雪機も持っているが、雪の降るスピードが早くて追いつかなかった。
- ここ数年は降っても10cm程度で、あまり雪が降らない地域。耐雪ハウスではなく、パイプ径は25mm程度。



【主なご意見】

- 除雪直前に他から救助要請があり、約1時間遅れただけで倒壊した。
- アスパラ菜6棟分が出荷できず、スーパーに迷惑をかけている。
- コロナの影響で経営が切迫している中、春先に新しく投資することは困難。早急に支援が必要。
- 共済未加入であり自力再建で進めていくが、そのペースでは春作業に間に合わない。共済未加入者へも何らかの支援を考えて欲しい。

新潟県における意見交換会概要

(1月23日：新潟県上越市役所)



【主なご意見】 ※は農林水産省からの説明

- 十分に備えたが被害が出た。気持ちを萎えさせないことが重要。
- 早期の営農再開に向けて、農業用ハウス・畜舎等の再建・修繕・撤去、追加的な種子・育苗の確保、果樹の植え替え、家畜の導入、災害関連資金の無利子化、限度額の嵩上げ、償還期間の延長や、多額の共済金の支払いに対応した再保険金の早期交付等へのきめ細かな支援が必要。
- 農業共済は、掛け金が割高、全棟加入条件等に課題があると認識しており、未加入者が多い。
※園芸施設共済は全棟加入が原則だが、棟毎に補償は選べ、掛け金を大幅に安くできる仕組みもある。
- 崩落した筒石の船小屋（20m長の10トン級を収容可）は、新しく荷捌き場と倉庫として再建することを計画している。
- 3月下旬からの育苗作業開始までに撤去・建替が必要。来週から撤去も含めた事前着工に取りかかる。撤去費用を含め手厚い支援をお願いしたい。
※撤去に伴う廃棄は農林水産省と環境省で連携して対応。

【大臣ご発言】

- 経営の継続・再開に向けて、希望を持っていただけるような対応をしていかなければならない。
- 被災した施設の再建・撤去など現場のニーズに応えることができる必要な支援を速やかに検討してまいりたい。